こんぎょー新聞

'18.7.No.25
発行責任 市岡敏夫
0883-88-5292

ドクダミ

毎日、毎年目にしている木々や植物。それでも、ある年によく目にする様になり、「なんでろう」と気になる。

六月のはじめ、そんな花(木)が気になり詳しく知っている知人の所へ行った時、橋の上で祖谷川を見ながら話してると、谷の方から橋の支柱の所へ飛んで来た。「アレ！」アカショウビンの事はすぐ出ても、なかなか姿は見えないので、気になりチラチラ見ていると、橋の下へ飛び上がる。「もしかして、巣でも…」

わくわく どきどき……そして

何回か、出はいりを確認。林の中に座って、「いつ来るか、今日は見えるかな」と待ちながら、祖谷の自然を様に感じることが出来た。以外に蝶類が多く飛びかう。鳥では、カラス、ヒヨドリ、トンビ、サギ、カワウもよく見まにする。小さな昆虫も目の前の低木に動いている。

道路では、一時間に二十台位の車が走る、以外と多いもんで。川から、カッコウの鳴き声がくてくる。一時間が短く感じる程、わくわく、どきどきの時がたっていく。

そして、六月末の二十日になると、何回も出入りするアカショウビンを確認できる。やっとヒナがかえった！！あと十日間位は、よく見えると、その夜は、少し興奮気味。

次の日、一時間以上待っても出入りがない。何回か、二十前、二十日観察したが、何もなし。

どうも、カラスかなにかにヒナがやられたようで、ガックリ!!、自然界の出来事のあっけない前のことだけど残念、無念。

コチョウラン

アカショウビンの巣だった

この間、知人がヤイロチョウらしき鳥を見ているし、大きな木の枝に、昔で巣らしきものもあったりして、まだ楽しみはありますが、アカショウビンは夢だけになってしまいました。

家では、前の電線にカッコーが飛来。三十分位いる時もあったりして、退屈はしません。

また植物も、昨年出合った小さな、ヒナラン、セッコクラン、ツルラランも咲いてきたり、ジガバチソウ、クモキリソウも見ることが出来たりしました。

六月のはじめに気になった木の花は、フジキ(ヤマエンジュ)でした。

今年は、ミズキの花がいっぱい咲いて、例年にない目立ったりしています。

そろそろ、ニイニゼミ、ヒグラシが鳴く頃ですが、まだウスバキトンボが見えないのが、気になっています。それにしても、

ヒナラン